



附属学園が連携することの利点

附属小学校の特色の一つに、「附属学園の連携」があります。同じ敷地内に、幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校の4校があるというのは公立小学校にはなかなか見られないことで、この利点を教育活動に生かさない手はありません。

10月の後期開始時からだけでも、様々な学年が、様々な交流及び共同学習を行っていますので、紹介します。

【附属幼稚園との連携】

10月19日、年長児が小学校を訪れ、1年生と一緒に給食を食べ、昼休み時間を低学年遊び場等で遊びました。私が知っている限り初めての取組だと思います。いつもは一番小さい学年で、困ったときは先生や6年生に甘えてくる1年生が妙に大人びて見えました。逆に、小学校の玄関に入ってきたばかりの年長児には緊張感が漂っており、運動会等の園行事で見る堂々とした態度はありませんでした。しかし、1年生のお兄さんやお姉さんと一緒に活動を楽しんで、幼稚園へ帰っていく頃には、いつもの元気いっぱい年長児に戻っていました。今月2日には、1年1組が生活科で行っている「にこにこえがおフェスティバル」にも、年長児が招待され、思いっきり遊んで帰って行きました。きっと、このような楽しい交流活動を積み重ねることで、小学校に対する不安が解消されていくと考えています。



また、10月29日は、幼小連携授業の一環で、1年担任の屋鋪教諭が幼稚園へ行って、年長児を対象に授業をしてきました。私も1年生を担当したときに経験がありますが、幼稚園児を集中させ、伝えたいことを理解させるのは至難の業です。1年生に対するよりもさらに、抑揚のある表現力を用い、短い言葉で分かりやすく話さなければいけません。この経験は小学校の教員としてもたいへん生きました。

今、附属幼稚園・小学校では、新学習指導要領下の幼小の円滑な接続に向けて、幼稚園で行う小学校入学までのカリキュラムと、小学校で行う入学から小学校生活に慣れるまでのカリキュラムの見直しを図っています。

【附属中学校との連携】

10月24日から、本校の秋の公開校内研究授業が始まりました。富山大学教授の指導の下、附属学園の先生方、公立小学校の先生方、学生が参加し、これからの授業の在り方について議論します。中でも、中学校と一番連携して考えていかなければい

けない教科が外国語科（英語）ではないでしょうか。これまでもお知らせしてきましたが、小学校の外国語活動が外国語科になります。指導時間数も高学年が週1時間から2時間に、中学年が新たに1時間増えます。小学校の授業が変わることで、中学校の授業にも必ず影響が出ます。そんな中、10月30日、5年奥村級で外国語科の公開校内研究授業が行われました。県内の小学校の先生だけでなく中学校の先生も参加して研修を深めました。

また、今月5日には、6年生が附属中学校を訪れ、合唱コンクールに向けて練習している中学生の様子を見せてもらいに行ってきました。教師主導ではなく生徒が自主的に練習している姿、真剣な表情で歌っている姿は、6年生の刺激になったことでしょう。

【附属特別支援学校との連携】

10月25日、4年生が特別支援学校の児童と一緒に植えたサツマイモの収穫、収穫の様子の発表等を行う交流および共同学習をしました。前期から継続して行っている活動ですが、特別支援学校との交流も、何年かぶりに復活したものです。特別支援学校の児童を前に、どうやって話しかけたらよいか戸惑っている様子もありましたが、そこは附属っ子です。特別支援学校の児童の気持ちを思いやり、自分から話しかけようと努力していました。次は、何か料理を作って食べるのでしょうか。今後の活動が楽しみです。



以上、ここに書いたことは、後期が始まってから、附属小学校が附属学園と連携して行っていることの一部です。これらはマンネリ化したものではなく、担任の創意で、今年度新たに始めたものがほとんどです。この成果と課題を外部にも発信していきたいと考えます。

最後に、附属学園が連携して行っている活動を、「子供にどんな力が付いているのか」という視点でみてみたいと思います。1年生の交流給食にしても、4年生のサツマイモ集会にしても、子供たちにとっては慣れない環境で、慣れない人と一緒に活動する経験をしています。自分にとっても相手にとっても楽しい活動にするためには、相手とよく話し合い、折り合いをつける力、コミュニケーションする能力が必要になります。つまり人間関係をうまく築けるかどうか大切です。「家ではよく話すけれど、外では自分の考えを遠慮して言わない」というお子さんはいないでしょうか。現代は便利になり、困ったことがあっても解決策はネットを使えば手に入ったり、ネットに書き込めば、知らない誰かが教えてくれたりし、人と話すという機会が少なくなってきました。私はいろんな場面で「これから何が起こるか分からない不透明な時代、多少の困難にへこたれず、自分で考え判断し行動できるように・・・」とよく言いますが、そんな人になる上で、コミュニケーション能力に長けているか、人間関係をうまく築けるかどうかは大切な力になります。附属学園が連携して行っている活動は、そんな力を付けるための一助になっている気がします。

（副校長 曲 師 政 隆）